



公益財団法人 School Aid Japan

# バン格拉デシュ通信



2014年2月号 No. 14

## 2014年度スタート！！

1月12日、Narayankul Dream Model High School (NDMHS)の新年度が始まり、新入生(日本で言う小学校6年生がこちらでの中学一年生。以後6年生と呼称)が登校しました。校舎や新しい友達、先生方を見て少し緊張している6年生。

一方、一年間仮校舎で生活してきた7年生は、広い教室にきれいな机、さらに新しく NDMHS スタッフに加わった先生方を見て、早く授業を受けたいとワクワクを隠せない様子でした。

7年生は後輩が出来たことにも戸惑いの様子はなく、朝のアセンブリでも後輩たちをリードします。NDMHSの文化を後輩に背中伝えてほしいです。(右写真、奥が7年生、手前6年生。)



ガイダンスを受ける新入生



朝のアセンブリで整列する6, 7年生

## 新教職員

昨年度末に行われた教員採用試験を経て、共通理念の心強い先生方が加わり、12名から20名(教員14名、事務員2名、日本人3名)に増えました。

2014年度も、子どもたちの幸せのために、教職員一丸となって仕事をして参ります。



---

## バングラデシュの国民総選挙

1月5日、国民総選挙が行われました。結果は前政権アワミリーグ(以下アワミ)の大勝利に終わりました。キーとなったのは選挙管理内閣の設置の是非でありましたが、結局設置されませんでした。

公正な選挙の実施のために、選挙管理内閣の設置を求めている野党18党連合に対し、設置の意向を最後まで示さなかったアワミ。公正な選挙無しには勝算が無いと踏んだ野党連合は選挙をボイコットしたため、今回の選挙は、議席の大多数をアワミとアワミ派が確保する結果で幕を降ろしました。

一方投票率は全国で10%前後と異例の低さ。大多数の国民は投票を行っておらず、現地で働いている私たちも、国民が政治に興味を無くしてしまっている様子を伺うことができます。

再度公正な選挙が行われるべきだと主張している野党連合に対し、選挙は合法的に行われたため、再度行う必要はないと主張しているアワミ(写真の女性がハシナ現首相)。

選挙後、ホルタル等の抗議活動が終息したかのように見えますが、与野党の攻防はまだ継続中であり、引き続き気が抜けない状態が続きます。

---



アワミのハシナ現首相

---

## 世界的なイスラム教の集会「ビッショ・エスティマ」

1946年に始まったエスティマは、バングラデシュのダッカ郊外のトンギ地区にあるTurag川付近で行われる、世界で二番目に大きいイスラム教の集会です。近年、来訪者が増え続けており、2013年の開催からは2度に分けられています。エスティマが行われる場所から10Km離れた場所でも人で溢れ、車が通行できない状態でした。

聖地メッカに向け今年も数百万人が同時に祈りを捧げました。



聖地メッカに向けて祈りを捧げる人々



道路は人で埋め尽くされています